

環境を考える経済人の会 21 2006 年度第 3 回朝食会

「御苑百年」

遠藤稔氏（環境省自然環境局新宿御苑管理事務所普及指導企画官）2006.7.19

平野喬 新宿御苑が今年 100 周年を迎えました。

新宿御苑は明治 5 年(1872 年)、明治政府が農事試験場として設立したのが始まりです。キャベツ、ナス、トマトなどの野菜はここから日本全国に広められたそうです。

総理主催の「桜を見る会」などで知られていますが、この都心最大の緑地では、77 種の野鳥が観察され、26 種が営巣・繁殖しているのをご存知ですか。庭内には樹齢 130 年のユリノキやプラタナス、ヒマラヤスギが枝を広げ、ひんやりとした緑陰をつくっています。明治 4 年(1871 年)、右大臣・岩倉具視以下の大使節団が米国を訪問し、ニューヨークのセントラルパークを視察して、都市の中の自然の素晴らしさに感嘆したのが、新宿御苑のルーツだとも言われています。では早速、遠藤さんにお話をいただきます。

### 内藤家の江戸屋敷から国の農業試験場へ

遠藤稔 おはようございます。私は、ここ新宿御苑で普及指導企画官をしております遠藤と申します。仕事は「悪巧み全般」です。先ほど平野さんからご紹介がありましたが、新宿御苑は今年 100 周年ということで、それに向けていろいろな取り組みをしてまいりました。私はここに来て 5 年目になりますが、いろいろ準備をしております。私の元々の仕事は、国立公園のレンジャー、つまり自然保護官をしていました。北は北海道、知床の羅臼でヒグマと格闘し、沖縄県の石垣島の西表国立公園では、珊瑚礁の保全やモニタリングプロジェクトの立ち上げなど、ほとんど野外で生物系の仕事を主にしていました。ここに来る前は、中部山岳国立公園、上高地の日本アルプスで、主に山岳地域の保全の仕事をしていました。山に登っては自然よりもむしろ人相手の仕事をしていました。今まで、環境教育関係をライフワークにしていろいろな取り組みの中に関わっていたのですが、ここ新宿御苑を、これから都市の中の環境教育の拠点に変えていこうというような流れもあり、「お前、来い」ということでここに呼ばれて、ここで 5 年お世話になっています。

上高地に行っている間に、「ちょっと行って来い」ということで、第 41 南極観測隊に同行して、オブザーバーで夏隊と一緒に南極へ行ってきました。日本を離れたのは 5 ヶ月、南極には 2 ヶ月ちょっといまして、生物系の調査のお手伝いをしました。それは出張でしたが、非常に楽しい旅行をさせていただきました。

話を戻しますが、新宿御苑は 100 周年を迎えました。実は、「100 周年」ということ

で大きな転換を迎えるのですが、なかなか知られていない歴史的な沿革をお話させていただきます。

元々、新宿御苑は皇室の庭園でした。その昔、古くは豊臣秀吉が天下統一をして、東の守りを徳川家康に任せようということで、家康が江戸城に入城した際に、江戸の西の守りの要を、自分の家臣で腹心の内藤清成に任せます。後の信州高遠藩の内藤家ですが、「内藤清成が馬ひと駆けて回ったところを領地とする」ということで、この辺一帯が内藤家の土地になりました。その後、内藤家が今の新宿御苑の玉藻池というところに下屋敷を建てました。そこには江戸城に水を引いた玉川上水があり、大木戸の所から暗渠になって江戸城に続き、江戸の水を供給していました。内藤家が大木戸の管理をしていたということで、その特典として自分の庭に水を引き込んで池をつくったりしました。

当時、江戸の中でも名園とされる玉川園が出来ました。それから江戸幕府が倒れ、明治の新しい政府になった時に、政府が内藤家から買い取りました。ですが、内藤家の末裔の方は「取られた」と言っておられて、お殿様の末裔はそこ内藤町に住んでいるのですが、「あそこはまだうちの領地だ」と思っているようです。



←江戸時代の地図



↑試験場当時のプラタナス並木

そのようなことで政府がここを買い取り、その時にここを国の農業試験場ということで、まずは日本が世界に開かれた時に、いろいろな植物や果樹、花木類を日本に持ち込んだゲートウェイ的なもので、そこで「内藤農業試験場」という名称でさまざまな植物を持ち込んできました。そのようなことで、私どもの苑の中にある大きな木はほとんどが外国産の木なのですが、明治初年に植えられたものです。ですから、ここから見える大きな木、向こうに見えるのはメタセコイヤです。ちょっと色の濃いものがヒマラヤスギです。大木ではユリノキやプラタナスがあります。特に、ユリノキ、プラタナスは明治9年に日本で最初に持ち込まれたのがここで、その枝や種を東京に広め、東京のプラタナス並木や、ユリノキ並木は新宿御苑から始まりました。

その頃、農業の試験場ということで、日本の農業を振興していこうという動きもあり、農学舎という学び舎をこの中につくり、それが後に駒場に移り、東京大学農学部の前身

になりました。まさに日本の農業造園学の発祥の地になりました。その時にここを管理していた福羽逸人（ふくばはやと）氏が、特に果樹栽培などについても熱心で、皆さんの家庭の食卓にも出てくるイチゴの原種になっている福羽イチゴを品種改良しました。それが今の「とよのか」「とちおとめ」などの原種になったと聞いています。そして、メロンや、青森のリンゴも同様に新宿御苑からです。小豆島のオリーブも、新宿御苑から小豆島に持っていっています。そのような歴史的なことがありますので、今、日本の食卓に上っているようないろいろなフルーツのルーツがここ御苑にあります。



福羽逸人



マルチネの鳥瞰図

### 仏人造園家マルチネによって一大近代庭園に

その後、明治 14 年に伊藤博文の上奏により、いわゆる幕府を倒す時には皇室を利用したのですが、その後皇室を象徴的な存在にしようということで、当時、明治天皇が農芸を奨励していたということで、ここを模範的な農場にしようということになり、後に皇室の農園と変わりました。皇室の農園になってから後、旧華族たちが経営を行ったのですが商売が下手だったのでまともな農園が出来なかったということで、一時期は長野の業者に委託して、民営の農場に変わっていたようです。当時ここで綿花などの栽培などを行っていたようです。

そのころ、ちょうど 1900 年にパリで行われたパリ万博に日本の技術を出展しようということで、福羽逸人が御苑で栽培していた菊の大作りを三つ持ち込みました。当時、パリ万博でも非常に評判になったそうです。その時に、ベルサイユ造園学校教授で、有名な造園家のアンリ・マルチネ（Henri Martinet）という人にこの基本設計を書いてもらいました。当時管理をしていた福羽逸人は、皇居から赤坂、明治神宮と土地の買収も合わせてして、一大近代庭園にするという壮大な計画がありました。まずはここにヨーロッパの最先端の技術を持った庭園をつくらうということで、基本設計をもとに庭園の作りにとりかかり、ちょうど今から 100 年前の 1906 年に今の形が完成しました。

日露戦争が 1904～1905 年にあり、その戦勝と合わせて 1906 年 5 月、ちょうど向かい側の小高いところに建物をつくり、そこで明治天皇のご臨席を賜って戦勝祝賀会を行いました。その時に明治天皇が、「本日をもってここを新宿御苑とする」とされて、ここが新宿御苑となりました。それからは皇室の庭ですので、一般には開放されずに皇室の方々が散策されたり、当時は温室がありましたので、温室で花を見たり、フルーツをいただいたりされていたようです。その後、大正時代になると 9 ホールのゴルフコースが出来ました。この芝を見たらやりたくなりますね。昭和天皇はお好きだったようで記録が残っていますが、その後、ここの池のヘドロをさらった時にはゴルフボールが結構出てきましたので、池越えコースがあったようですが、あまりお上手ではなかったんですかね。

その他、テニスコートもあり、いわゆる皇室のリクリエーションの場になりました。先ほど最初に入ってくださいました管理事務所の隣に同じような建物があったと思いますが、それが明治時代にクラブハウスのつくられたお休み所で、今は重要文化財になっていて、毎月第 2、第 4 土曜日に公開しています。

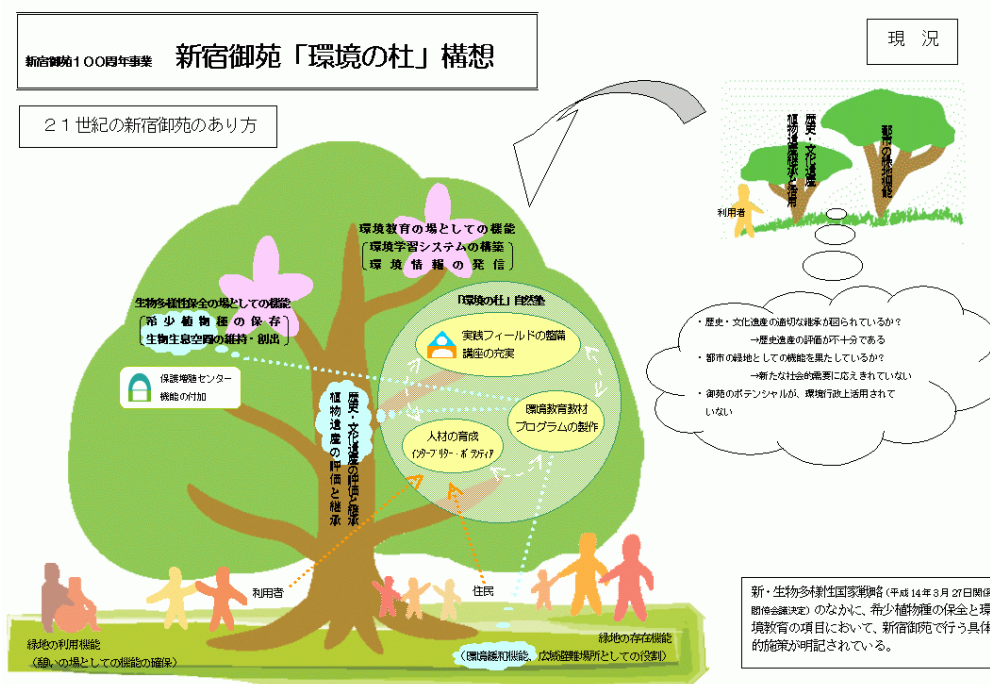
第二次世界大戦後、国民に開放しようということで厚生省の管轄になり、国民公園ということで昭和 24 年から国民に解放されるようになりました。そのころは戦後の復興期でもあり、今の駐車場のある所は遊園地だったり、園内には野外劇場もあり、土曜日は夜の 9 時頃まで映画会やコンサートなどもやっていました。それから後に環境庁、環境省というかたちで所管が移って今現在に至っています。

### ヒートアイランドを緩和するクーラーの役割

現在の話をしていただきます。ここの新宿御苑に来られる方は、皆さん「都の公園」という認識で、環境省が所管をしているという印象がほとんどないようです。私どもの組織の中でもどちらかというと歴史的な流れの中で管理が移っていて、皇室ゆかりの歴史的公園を管理するというような立場で、どちらかというと環境省という組織の中では末端の一部の仕事をしていました。なおかつ行政的な重要な役割の仕事をしていなかったということで、昨今の行政のスリム化という流れの中で、独立行政法人にしようとか、切り離して民営化しようなどといういろいろな議論がありました。私ども末端組織はつねに、人を減らす、予算を減らすなど、最近ではCO<sub>2</sub>削減までノルマが課せられていて結構大変なのですが、そのような中で平成 13 年にそのような大きな波が来た時に、たまたま皇室ゆかりだということでここは回避出来ました。同じ国民公園の皇居外苑や、京都の御所の周りの京都御苑はまさに皇室との関連性が深いということで、それは回避出来たのですが、次の波が来た時に、御苑はそれほどでもないのであれば御苑だけでも切り離すという議論になります。その時に幹部が、都市の中でこれだけの緑地を持つと思っても持てないのだから、これにしっかりとした意味付けをして、もっと政策の中でしっかりとした展開の出来る場に変えていこうということで、「環境の杜」という構



想を立てました。



大きな柱は、歴史的な公園なので、歴史、自然、文化遺産をしっかりと守って行って後世に残すためにしっかりと光を当てて浮かび上がらせ、評価をしていくということをお大事にして、それを最初にしようということになりました。さらに、都市の中の広大な緑地ということで、新しく付加された意味合い、例えば都市防災の要であったり、今都市の温暖化でヒートアイランドなどが問題になっていますが、それを緩和するクールアイランド、まさに夏の間に来ていただくと周りより2～3℃は涼しいです。ということで、大きなクーラーということで、その大きなクーラーを使って都市を冷ましていこう。インフォメーションセンターでその取り組みのパネル展をやっているのだから、帰りにご覧いただければと思いますが、そのような場所として重要な位置付けもある。



最後に、環境省が持っているのなら、もっと積極的に行政のいろいろなかたちの政策として使える場としていこう。いくつかあるのですが、一番大きな一つは、環境省で

例えば地球温暖化などいろいろな問題や廃棄物のリサイクルなど、国民に知っていただく普及啓発をしなければいけないため、いろいろな場所をお借りしてやっていますが、まさにここが環境省の持っているプロモーションの場として使うには最適だろう。立地条件も良いし、自分の土地ですし、なおかつ環境も良い。この中でいろいろなことをやって、そのようなことを知っていただく場として位置づけようと考えました。

今年 100 周年ということで、ターニングポイントとしてはまさにいいだろう。通常 100 周年というと、税金を使ってお祭りでワッとやって終わるというようなものなのですが、それをやってしまったら意味がないだろう。このようなご時勢で税金もふんだんにあるわけではないですし、国の予算ほど使いづらいものはないので、そのようなものよりも、むしろ「皆さんに祝っていただく」というスタンスに変えていこうというかたちで、私ども環境省と、ここを管理している外郭団体の国民公園協会新宿御苑、そして新宿区、渋谷区、この 4 者で委員会を組織し、「100 周年記念事業実行委員会」をつくりました。そこを母体として皆さんに祝っていただくというようなかたちにしました。

### 環境プロモーションの場として民間にも開放

お配りした資料の中には「100 周年のお願い」というものがあるのですが、いくつかのお願いを皆様にさせていただいています。一つは、100 周年ということを知っていただくということで、ロゴマークをつくり、そのロゴマークをみんなに知っていただくということで、いろいろなところに使っていただく。春には高島屋がお花見弁当をつくっていただき、そのパッケージに私どもの 100 周年のロゴを入れて、私どもの入園券を前買いしていただいて、それを付けて売っていただいたのですが、結構好評でした。新宿の大通り商店街などでは、新宿駅前の ALTA から四谷 3 丁目の交差点まで、ことあるごとに 100 周年のロゴを入れたバナーをつくっていただいたり、新宿駅東口のビルなどでは大きな垂れ幕をしていただいたりと、地域では盛り上がっていて、共に祝っていただいています。資料の中の「御苑百年」のチラシは、大きな A1 サイズポスターもあります。日本画家の千住博氏が私どもの 100 周年を意気に感じていただいて、「滝桜」という絵を無料でそのままお貸しいただいて、それがポスターになりました。



ロゴマーク



ポスター

そのようなかたちで皆さんにいろいろご協力いただいて、皆さんに 100 周年を知っていただくというかたちにしています。

さらに、やるにはお金がなければ出来ない。税金という無粋なものは使いたくないということで、いろいろな方にご協賛いただくというかたちをとりました。企業にご協賛いただいて、神社のお祭りなどでよくあるご寄付をいただいた方の名前が大きく載るといふのと同じかたちで、新宿門を入ったところに大きな協賛ボードをつくり、ご協賛いただいた企業のお名前ロゴマークを入れさせていただきます。今回この会をここ御苑でやっていただき、話をしたゲストは謝金がもらえるということだったのですが、私は残念ながら公務員ですので謝金がもらえないので、その分をこのボードにご協賛いただくというかたちをとっていただきました。皆様方にご協賛いただいたということで、「環境を考える経済人の会 21」で、協賛ボードに昨日お名前を載せさせていただきます。

これは個人でも、企業、NGO、NPO なども参画いただいています。中には企業などでも来年の 3 月まで設置されますので、広告効果なども高いので、意外に乗りやすいということも言っていただいています。そのようなかたちで、先ほどチラッと見ていただいたようなパビリオンなどの施設も税金を使わずにつくっていかうという趣旨でやっています。

外側（パビリオン）はつくってみんなが盛り上げても、中身の行事がなければ意味がないということで、100 周年の記念イベントというものを募集しています。実はこれが一番大切な部分で、先ほどお話しましたように、ここが環境のプロモーションの場だということをお話していただいたり、100 周年のお祭りだけで終わらせたくない。この後も環境省が政策的に何かをやるとか、良いものであれば、これは国だけではなく企業にも参画していただいた中でやっていく場として変わっていかうということで、いろいろな 100 周年のイベントをお願いしています。これは地方自治体、NGO、NPO、企業などにお願ひし、お手元のパンフレット（4 枚）を開いていただくと、イベントの予定が入っています。5 月末にはゼネコンが環境イベントをやりまして。たまたま同社が今私どもの「母と子の森」というビオトープをつくる工事を請けていただいていますので、そのような関係もありますが、いろいろな団体にご利用いただいて、そのパビリオンでコンサートのなものや、いろいろなイベントをやっていただいています。

国の施設は今まで、なかなか企業とのお付き合いでは社会貢献の部分でしかお付き合い出来なかったのですが、むしろ環境ビジネスというところにもコンセプトのしっかりとしたものであればお使ひいただいているのではないかと考えています。

そのようなことで、「環境」というテーマがキーワードであれば、いろいろなことがこの 100 周年の中で展開していただけます。パビリオンだけではなく、インフォメーションセンター内の施設や、芝生など、いろいろな使い方があります。大きいものでも、小さいものでもいろいろなかたちでここをご利用いただいて、御苑を使って自社のピーアールをしていただいてもいいのではないかと思います。むしろ、そのようなことがどんどん広がることによって、一般の方々に関心を持っていろいろとわかっていただくと

いうことをしたいと思っています。

最後にご紹介します。100 周年の事務局をやっている東京ガスの関連会社、アーバンコミュニケーションズの森さんです。

森 高一 事務局を仰せつかっておりますアーバンコミュニケーションズの森です。よろしくお願いいたします。来年 3 月まで 100 周年ということで事務局をやっていて、ただ今ご紹介いただきました記念イベントのご案内と調整、そして、いろんな場面で「こんなものはどうだろう」など、いろいろな企画の調整役をさせていただいています。普段は私どものスタッフの服部という女性が常駐していますので、ご相談ごとなどがございましたら、よろしくお願いいたします。

遠藤 私どもと組んでやっておりまして、彼は環境教育では知る人ぞ知るという男で、地球温暖化に関しての普及啓発施設で「ストップ温暖館」というものがあるのですが、それをプロデュースしたのは彼で、環境系では生き馬の目を抜くような、将来を背負って立つ男になると思います。そのような役所の枠を越えた中で、良いことをやっていこうというような動きでやっております。ですから、最近私は周りからも本人も、どうも役人ではなくなってきたので、この 100 周年が終わった後にどうやって身を立てなければいけないのかと思っています。

貴重なお時間をいただき宣伝をさせていただきました。

この後、新宿門に向かっていただきインフォメーションセンターがあります。そのギャラリーで、新宿御苑の「大きなクーラー」を使って都市を変えていこうというプロジェクトが 2 年前からあり、それに私も関わっているのですが、その普及啓発でパネルイベントを今日からしています。実は、企業にもお声掛けをさせていただいて、本日もおいでいただいている企業にも、パネルや、会社の取り組みで環境技術をご紹介していただくようなパネル展をしていますので、最後にそれをご覧いただいて、このようなこともやっているのだということも見ていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

森 地球・人間環境フォーラムとこの 100 周年記念イベントの事務局が共催して、8 月 1 日から企業の環境の取り組みのパネル展示を、このパビリオンの裏手のギャラリーで行う計画をしています。各企業が A 版サイズ 1 点ということでエントリーをしていただくことにしていますが、出展無料で、企業の取り組みを PR していこうということで、今回企画しました。7 月中募集して、8 月からギャラリーで展示を行います。もし、今日お越しの企業の中でご賛同いただける会社があれば、エントリーいただければと思い



ます。もちろん、既存のパネルをお使いいただいても構いません。これまで 21 社がエントリーしています。

<事務局追記>

今回の朝食会は新宿御苑で行い、散策しながらゲストの話を伺いましたので、質疑なども含めて、録音できていない部分があることをご了承下さい。